

「これからの日本の医療に好循環をもたらす MR」

川田 敏一（ジェンザイム・ジャパン株式会社 先天性疾患・稀少疾患事業本部）

「パパ、私の薬をつくって。」2 年前、「小さな命が呼ぶとき」というポンペ病という先天性の稀少疾患を題材とした映画が公開された。実話を元にした内容で、ポンペ病の子供を抱えた親が治療法を求め、最後には治療薬を開発する会社を立ち上げ上市を果たすといったストーリーだ。難病の子供をどうにかしたいと想う親の愛情の深さ、その愛情が突き動かす強い情熱にとっても心を揺さぶられた。私はその治療薬を扱う会社に勤めている。

ポンペ病の中でも重症型である乳児型は治療を受けないと生後 2 年のうちに多くの場合は心不全で命を落としてしまうという死の難病だ。

5 年前、その乳児型の患者さんを診断した S 先生を担当していた時のこと、患者さんの容体を伺うと、特に心機能が芳しくないという話だった。その時ボソッと S 先生が「あと数日でも早く診断をつけることが出来ていたら、この子の予後はもっと良かったかもしれない」とおっしゃられた。あまりの言葉の重さに返す言葉を失った。偉そうな言い方になるかもしれないが、このポンペ病の治療薬があるということすらまだ全く知られていなかった当時、この疾患を疑って診断しただけでも奇跡ではないかと思っていただけに、S 先生のご自身に対する厳しい姿勢にとっても衝撃を受けた。「でも、治療薬があるからこうやってどうにか生きていられるんだよね」というその後の言葉に救われた。今もその患者さんは治療を受け続けている。知能障害があるものの、隣で看護師さんが読んでくれた本を暗唱してしまうぐらい聡明な子として育っているそうだ。

そのような患者さんの話を聞くと、稀少疾患を担当する MR 冥利に尽きる。

治療法がある以上、MR として一人でも多くの患者さんが治療に入られるように、一人でも多くの先生方に疾患啓発や診断、治療法の情報提供を伝えなければならないと切に思う。

治療可能な稀少疾患の数が増えてきたことにより、認知度が上がり、最近では見逃してはいけないという意識が先生方の中で少しずつ高まってきている。

しかしその反面、現実には稀少疾患であるが故、初めて訪問する先生たちの反応は概ね最初は微妙であることが多い。「うちでは診ないよ」「私はその疾患の専門医じゃない」と言われることも。「今後も診ることはないから、これ以上の情報提供は要らない」と面談を断られることもある。稀少疾患の治療薬を担当する MR として、先生方に興味を持っていただけるようなファーストアプローチが出来なかったのでは、と力不足すら感じる。

「医薬品等の製造販売後安全管理の基準に関する省令」（厚生労働省令第 135 号）で、医薬情報担当者とは、医薬品の適正な使用に資するために、医療関係者を訪問すること等により安全管理情報を収集し、提供することを主な業務として行う者をいう、と定められている。そのような悩みを抱えることが出来るのも、MR として理想に近い環境で仕事をさせていただけていることに感謝せねばならない。

今は稀少疾患の治療薬担当の MR として仕事をしている身だが、前職は某メガファーマで生活改善薬を主に担当し、競合激しい中で高い売上目標を達成するために、泥臭い仕事もなかったわけではない。

昔に比べ現在では業界全体の自主規制も強くなり、コンプライアンスの遵守が厳しく求められるようになった。MR という職業は医薬品という生命関連物質を取り扱う上で、医療関係者から日常の診療活動に役立つ信頼性の高い情報の提供と収集・伝達という活動が求められているが、その反面利益を追求するメーカーの営業職でもあるため、売上目標を達成しなければならない、大きく二つの側面をもつ。それを高次元で両立できる MR が優秀と言われるのだが、特に近年は訪問規制も強化され、情報提供・情報収集する場が減ってしまっているが故に、自社製品に偏った情報提供になってしまうのが現実だ。先生方とじっくり議論する時間が限られ、ますますそういう傾向に走りがちだ。

しかし、そういう環境にしているのも自分たち MR の責任であるということを感じると同時に、第三者的な目線で、自社製品のメリットのみならず、デメリットもありのままに伝えられる真摯な姿勢を持ち、それが顧客志向であり、患者第一であることを理解することが大切だ。

また一医療関係者として、医薬品の市場動向を分析し、自社製品のポジショニングを常に医療関係者と議論し、その意見を会社にフィードバックするマーケティング力も養わないといけないと思う。

歪んだマーケティングは過剰な計画目標を生みかねない、結果として自身に押し掛かってくる。そのプレッシャーは自身を追い詰め、偏った情報提供・情報収集、コンプライアンス違反を生む。このようなこれまでの悪循環を断ち切る好循環サイクル型 MR を私は目指したい。

※コンプライアンスの遵守とは、製薬企業に関わる法令とルールをしっかりと守ることであり、昨今は企業倫理や社会貢献などもコンプライアンスの範囲内として掲げる企業も多い。